

沖縄県における刑事施設内での死亡例に関する後ろ向き観察研究

1. 研究の対象

1995年1月から2022年12月までに、琉球大学法医学講座にて解剖・検案をうけた方のうち、留置場や拘置所などの刑事施設内で死亡された方。

2. 研究目的・方法

留置場や保護室、拘置所などの刑事施設内における死亡事故は、内因死（いわゆる病気による死亡）であっても、外因死（いわゆるケガや中毒による死亡）であっても、また自殺であったとしても、刑事施設の管理者にとっては様々な責任を問われ得る重大な事態であり、社会的にも問題となり得ます。

しかし、こうした刑事施設内における死亡事故についての我が国での報告は少なく、その予防策を十分に検討しにくい現状があります。そこで本研究では、沖縄県における、これまでの刑事施設内での死亡例を分析し、その傾向について検討することで、刑事施設内における死亡事故の特徴を明らかにします。

本研究ではこのような検討により、刑事施設内における死亡事故の予防策を考える一助となるような情報を得ることを目的としています。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

事例情報：解剖・検案所見（死因、損傷、血液検査の結果等）、捜査情報（発見時の状況、大まかな年齢、性別、既往歴等）

4. お問い合わせ先

本研究に関するお問い合わせ、また、協力を望まれない場合は、以下の問い合わせ先にお申し出下さいますようお願いいたします。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

機関名：琉球大学大学院医学研究科法医学講座

住所：沖縄県西原町字上原 207 番地

電話番号：098-895-1141 メール：fukasawa@med.u-ryukyu.ac.jp

研究責任者：深沢真希

-----以上